

令和3年度授業改善推進プラン

清瀬市立清明小学校 第4学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の定着に差が非常にある。 話す・聞くでは、特に聞くを苦手としている児童が多い。 文章構成を考慮することが難しい児童が多い。段落の区切り方を理解していない児童が多い。 一文が長く、伝えたいことが伝わらない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の学習では、筆順や成り立ちなどを確認して覚えさせる。 6年生の学力調査では、読むことの項目が低かった。4年生では読むことの学力を伸ばすために、授業の中では、文章を何度も読むようにして、文章が正しく読めるようにする。また、朝読書では、物語の本を1冊最後まで読み切ることができるよう指導する。 興味のあるテーマについてスピーチを行う。授業では、一斉読みや一人読み、表現読みなどの音読を取り入れ、言葉の語感を覚える。 ある程度の長さの文章を視写させることで、文章を書く習慣 体験的な学習や、映像教材を扱う機会を増やす。 農家見学、スーパーマーケットの工夫についてゲストティーチャーを招いてのインタビュー、警察署、消防署見学などを実施し、実際に働いている方々から講話を聴くことで、働く人々の思いに触れる機会を増やす。 	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字については、朝学習や宿題等で反復練習することで評価テスト到達状況が5%上がった。 要点を捉えた話し合いをしたことで、話し合ったことが分かったと学習感想に書く児童が出てきた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館支援員と連携し、本の紹介や本の読み方について話してもらうことで本へ親しんだことはできたが、文章題を解く上での理解につながらない児童がいた。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設や交通などを利用する児童が少なく、体験からの学びが少ない。そのため、指導事項と体験をつなげて考える事ができる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 満点率を100%に近づけるために、授業の始めの時間や朝学習の時間に九九を練習する時間を定期的にとり、特に苦手な児童に限っては取り出して個別指導する。 計算の順番を位ごとに色分けした板書で分かりやすく提示し、パターン別に型分けしたプリント学習を行う。 「たてる・かける・ひく・おろす」の手順を色分けして視覚的に分かりやすく提示し、パターン別に型分けしたプリントを使って個別指導する。 	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返りや関連を意識したり、資料の読み取りを行ったり、地図を適宜使った成果が出たと考えられる。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 知技が90%到達しなかった。繰り返し学習に関連する言葉を言ったり、書いたりして、定着を図る必要があった。
算数	<ul style="list-style-type: none"> かけ算九九81問の満点率が4月と比べると7月は50%から56%に上がったもの、依然として半数程度の児童が完全に習得していないことが課題である。 1学期末のたしかめテストの結果から、3桁同士のかけ算筆算の誤答率が45%と高く、無回答も約10%となっている。 除数が1桁のわり算筆算では、レディネステストの結果と平均正答率が8割程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> 満点率を100%に近づけるために、授業の始めの時間や朝学習の時間に九九を練習する時間を定期的にとり、特に苦手な児童に限っては取り出して個別指導する。 計算の順番を位ごとに色分けした板書で分かりやすく提示し、パターン別に型分けしたプリント学習を行う。 「たてる・かける・ひく・おろす」の手順を色分けして視覚的に分かりやすく提示し、パターン別に型分けしたプリントを使って個別指導する。 	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝学習やパワーアップタイムを使って四則の計算にコツコツと取り組むことで、計算のスピードや正確さが上昇した。とうきょページングドリル診断テストの正答率が10%上がった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆算における数値を書く場所が定着していない児童がいる。全員が定着できるようノート
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察の際、対象物を細部まで見て表現することが苦手である。 重要用語の正しい使い方が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 視点を与えて観察させる。具体例を示してから書くようにさせる。 重要用語の正しい使い方を繰り返し指導し、定着させる。 	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験や観察等、実際に児童が体験することで、考えたことをたしかめることができ理解につながった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の巻末や算数の「折れ線グラフの読み方」を確認したが、読み方を理解するのが難しい児童がいた。縦軸や横軸、単位等をつ一つ確認し読めるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 時期的に歌唱・リコーダー指導が十分にできなかったため、自然で無理のない発声や遠くに響き歌声。響きのあるリコーダーの息使いができていない児童が多い。 拍に合わせて正しくリズムを打つのが苦手な児童がいる。 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくることに課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞やサイレント奏法でイメージをもたせながら、時期がきたら指導する。 拍打ちとリズム打ちを意識させる。リズム打ちに小物打楽器の使用や身体表現などを取り入れ、楽しく活動しながら身に付くようにする。 楽曲の分析を行いながら、イメージをふくらましやすいうテーマや楽器を設定し、音楽づくりの学習に取り組ませる。 鑑賞では、国語で学習した話型や文型を意識して鑑賞カードに書かせる。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 用具や材料の基本的な扱いは身に付いていない、または身に付いていても、表したいことに合わせて、適切に用具や材料を用いることが難しい児童がいる。 構想を練って表したいことや表し方について考えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達同士での教え合い活動(得意な子から不得意な子への教え合い、声かけなど)や個別指導を取り入れていく。 たくさん褒めることや、それぞれの運動の特性や楽しさを味わわせる。場や授業展開を工夫することで、「楽しそう」「やってみよう」をより多く引き出し、どの運動にもすすんで関わられるようにする。学習カードで自分の目標を設定し、意欲を引き立てる。 コーディネーショントレーニングを通して、体をイメージ通りに動かすことができるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体を思っている通りにコントロールできていない児童がいる。 競争(走)で勝負にこだわり、勝敗を受け入れることが難しい児童が若干名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーショントレーニングを通して、体をスムーズに、イメージ通りに動かすことができるようにする。 勝負の結果だけが全てではなく、仲間と励まし合ったり、作戦や運動の工夫を考えたりすることなども、運動の良さであることを指導する。 体力の維持向上のために、授業時間では、短縄や長縄を授業の始めに取り入れる。 	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> コーディネーショントレーニングを取り入れることで運動能力の差に関係なく楽しんで取り組むことができた。また、自分の思った通りに体を動かすことができるようになった児童が増えた。 教師が見本となる児童を賞賛し価値づけることで、友達の良い所を見つけ、教え合う姿が見られた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に器械運動の運動能力の差があり、個
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値を、自分の生活の中で生かすことが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のまとめでは、本時の学習で学んだことを自分の生活でどのように生かせるかを考える時間を設定する。また、友達と考えを伝え合うことで、どのように生かしていくかを更に深めて考えられるようにする。 	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの価値項目で、自分の行動を振り返って考え、学習シートに書き表すことができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ考えの友達を見つけたり、手を挙げて同意したりすることはできたが、決まった児童が発言することが多かった。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ALTの発音を聞いて、真似て言うことができない児童が多い。 初めて聞く語句や、基本的な表現に苦手意識をもつ児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 手本の発音をゆっくり聞かせたり、一人ではなく大勢と一緒に発音させて慣れさせたりする。教室に英語の環境をつくったり、身近なものを英語で言うなどして親しませるようにする。 必要に応じて、日本語で解説を加えて授業を行う。 	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ビンゴやすごろく等を取り入れることで、ゲーム感覚で楽しんで単語を発音することができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流を通して英語で自分の思いを伝えるこ
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 身近な施設、物事、事柄について、「なぜ?」と疑問をもつことが少ない。 課題設定の段階で、何を調べてよいか決められない児童がいる。 子供が選択する、まとめる方法の選択肢が少ない。 文章を書くことに課題があるため、まとめの文章が伝わりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な施設、物事、事柄について範囲を絞って課題を立てさせる。そのために写真などを用いた具体的な資料を提示する。 課題設定の段階で、調べるものをしっかりと設定すると共に、調べるものをいくつも例示し、自身で課題を選定できるようにする。 まとめの方法をいくつか例示したり、他教科で学習したまとめの方法を思い出したりできるように振り返る場面を持つ 	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 車椅子体験やアイマスク体験などの体験活動をしたり、柳瀬川について地域の方から話を聞いたりと身近なことについて意欲的に調べまとめることができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報収集の際、自分の言葉でまとめられずタブレットに書いていることを直接写したりしている児童

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。